

埋蔵文化財試掘調査報告Ⅳ

国道バイパス・県道建設予定地及び県営ほ場整備事業予定地内の調査

1991年3月

香川県教育委員会

例　　言

1. 本書は、香川県教育委員会が平成2年度国庫補助事業として実施した、遺跡詳細分布調査の概要報告書である。
2. 今年度の遺跡詳細分布調査は高松東道路建設予定地の内の高松市前田西町の一部・三木町～津田町間、満濃バイパス建設予定地の内の仲多度郡満濃町羽間地区の一部・吉野下地区・五条地区の一部、県道山崎御厩線道路改良事業予定地の内の高松市檀紙町正箱地区・薬王寺地区の一部、および県営ほ場整備事業予定地の内の三豊郡高瀬地区・三野西部地区、大川郡大川地区・大内地区を対象とした。
3. 調査は香川県教育委員会事務局文化行政課主任技師岩橋 孝、技師北山建一郎が担当した。
4. 本書の執筆は以下の分担で行い、全体編集は岩橋が担当した。

| | | |
|-------------------------|-------|----|
| 高松東道路（前田西地区）・県営ほ場整備大内地区 | | 北山 |
| その他 | | 岩橋 |
5. 本書の挿図の一部に建設省国土地理院発行の25,000分の1の地形図を使用した。
6. 調査にあたっては、建設省香川工事事務所、香川県土木部道路課、高松土木事務所、香川県農林部土地改良課、三豊土地改良事務所、大川土地改良事務所、満濃町教育委員会、高瀬町教育委員会、三野町教育委員会、大川町教育委員会、大内町教育委員会、その他地元関係各位、および飼香川県埋蔵文化財調査センターの協力を得た。

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| 第1章 平成2年度遺跡詳細分布調査実施に至る経緯 | 1 |
| 第2章 国道バイパス建設予定地内の調査 | 2 |
| (1) 調査に至る経緯と経過 | 2 |
| (2) 調査の方法 | 3 |
| (3) 調査の概要 | 4 |
| 1 高松東道路（前田西地区、新川以西） | 4 |
| 2 高松東道路（三木町～津田町） | 8 |
| 3 滝瀬バイパス | 9 |
| 第3章 県道建設予定地内の調査 | 14 |
| (1) 調査に至る経緯と経過 | 14 |
| (2) 調査の方法 | 14 |
| (3) 調査の概要 | 15 |
| 1 県道山崎御瓶線 | 15 |
| 第4章 県道ほ場整備事業予定地内の調査 | 22 |
| (1) 調査に至る経緯と経過 | 22 |
| (2) 調査の方法 | 22 |
| (3) 調査の概要 | 24 |
| 1 高瀬地区 | 24 |
| 2 三野西部地区 | 30 |
| 3 大川地区 | 38 |
| 4 大内地区 | 43 |

図 目 次

| | | | |
|---------------------|----|--------------------|----|
| 図 1 国道バイパス調査対象地位置図 | 1 | 図 9 県営ほ場整備調査対象地位置図 | 23 |
| 高松東道路（前田西地区、新川以西） | | | |
| 図 2 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 5 | 図10 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 25 |
| 図 3 調査トレンチ配置図 | 6 | 図11 調査トレンチ配置図 | 26 |
| 高松東道路（三木町～津田町） | | | |
| 図 4 調査対象地位置図 | 8 | 図13 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 31 |
| 満濃バイパス | | | |
| 図 5 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 10 | 図14 調査トレンチ配置図 | 32 |
| 図 6 調査トレンチ配置・遺跡範囲図 | 11 | 図15 宗吉窯跡調査トレンチ配置図 | 33 |
| 大川地区 | | | |
| 図 7 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 16 | 図17 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 39 |
| 図 8 調査トレンチ配置・遺跡範囲図 | 17 | 図18 調査トレンチ配置・遺跡範囲図 | 40 |
| 県道山崎御厨線 | | | |
| 図 9 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 16 | 図19 調査対象地と周辺の遺跡分布図 | 44 |
| 図 10 調査トレンチ配置・遺跡範囲図 | 17 | 図20 調査トレンチ配置・遺跡範囲図 | 45 |
| 大内地区 | | | |

表 目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 表 1 遺跡詳細分布調査の概要（各年度） | 1 |
| 表 2 国道バイパス調査対象事業と調査経過・概要 | 2 |
| 表 3 県道山崎御厨線各調査トレンチの概要 | 15 |
| 表 4 県営ほ場整備調査対象事業と調査経過・概要 | 23 |

写 真 目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 高松東道路（前田西地区、新川以西） | |
| 写真1 調査風景 | 7 |
| 写真2 トレンチ⑤全景（東より） | |
| 写真3 トレンチ⑥土層断面 | |
| 満濃バイパス | |
| 写真4 調査対象地遠景（南から） | 12 |
| 写真5 羽間地区トレンチ①掘削状態 | |
| 写真6 吉野下地区作業風景（トレンチ⑤） | |
| 写真7 吉野下地区作業風景（トレンチ⑥） | |
| | 13 |
| 写真8 五条地区調査対象地遠景（西から） | |
| 写真9 五条地区トレンチ掘削状態 | |
| 県道山崎御厩線 | |
| 写真10 調査対象地遠景（南から） | 18 |
| 写真11 重機による掘削風景（トレンチ⑦） | |
| 写真12 トレンチ⑦掘削状態 | |
| 写真13 トレンチ②遺構検出状態 | 19 |
| 写真14 トレンチ④遺構検出状態 | |
| 写真15 トレンチ④須恵器壺出土状態 | |
| 写真16 トレンチ⑤遺構検出状態 | 20 |
| 写真17 トレンチ⑤須恵器壺出土状態 | |
| 写真18 トレンチ⑦遺構検出状態 | |
| 写真19 トレンチ⑧遺構検出状態 | |
| 写真20 トレンチ⑨遺構検出状態 | 21 |
| 写真21 トレンチ①出土遺物 | |
| 高瀬地区 | |
| 写真22 調査対象地遠景（トレンチ⑥付近） | |
| | 28 |
| 写真23 作業風景（トレンチ①） | |
| 写真24 トレンチ①遺構検出状態 | |
| 写真25 調査対象地遠景（トレンチ⑦付近） | |
| | 29 |
| 写真26 重機による掘削風景（トレンチ⑨） | |
| 写真27 作業風景（トレンチ⑨） | |
| 三野西部地区 | |
| 写真28 第1次調査、調査対象地遠景 | 34 |
| 写真29 第1次調査、作業風景（トレンチ⑤） | |
| 写真30 宗吉窯跡遠景（北東から） | |
| 写真31 宗吉窯跡第1次調査、発掘前の状況 | |
| | 35 |
| 写真32 宗吉窯跡第1次調査、作業風景 | |
| 写真33 宗吉窯跡第1次調査、窯体検出状態 | |
| 写真34 皿池池底（北から） | 36 |
| 写真35 宗吉窯跡第2次調査、作業風景（東から） | |
| 写真36 宗吉窯跡第2次調査、トレンチ①灰原検出状態 | |
| 写真37 宗吉窯跡第2次調査、トレンチ①下層出土遺物 | 37 |
| 写真38 宗吉窯跡第2次調査、トレンチ②下層出土遺物 | |
| 写真39 宗吉窯跡第2次調査、トレンチ④出土遺物 | |
| 大川地区 | |
| 写真40 調査対象地遠景 | 41 |
| 写真41 作業風景（トレンチ⑪） | |
| 写真42 重機による掘削風景（トレンチ⑫） | |
| 写真43 調査対象地遠景 | 42 |
| 写真44 作業風景（トレンチ⑬） | |
| 写真45 トレンチ⑮全景 | |
| 大内地区 | |
| 写真46 調査風景 | 46 |
| 写真47 トレンチ⑧不定形土坑検出状態 | |
| 写真48 トレンチ⑧土層断面 | |

第1章 平成2年度遺跡詳細分布調査実施に至る経緯

国民共有の貴重な文化遺産である埋蔵文化財の適正な保護のためには、その基礎となる遺跡に関する資料（遺跡台帳・遺跡地図）を整備し、充実していくことが必要であり、このことは埋蔵文化財行政の重要な施策の一つである。

香川県教育委員会は昭和58年度以来、過去5回にわたり国庫補助事業として「遺跡詳細分布調査」を実施し、埋蔵文化財の保護に努めてきたが、その概要は下表のとおりで、その経過は次のとおりである。

昭和50年代後半以降、香川県下ではいわゆる三大プロジェクト（瀬戸大橋・新高松空港・四国横断自動車道）をはじめ大規模公共開発事業が具体化するのに伴い、埋蔵文化財の適正な保護が緊急の課題となった。香川県教育委員会は昭和58年度から遺跡台帳の整備を目的として、4箇年計画で県下の遺跡分布調査を企画し、第1回目の「遺跡詳細分布調査」では多大な成果をあげた。しかし、その後四国横断自動車道、国道バイパス等の道路網の整備が急速に具体化するのに伴い、昭和61年度以降の「遺跡詳細分布調査」は緊急を要するこれらの大規模公共開発事業に対応するものとして、試掘調査を含めて実施することになった。さらに昭和63年度からは、それまでの調査結果等を勘案して、はじて平野部で広範囲に事業を行う県営は場整備事業を新たに調査対象に加え、埋蔵文化財の保護に努めてきた。

平成2年度は、昭和63年度以降の調査を踏襲し、緊急を要する高松東道路・満濃バイパス建設予定地、四国横断自動車道のアクセス道路となる県道山崎御殿線建設予定地、および県営は場整備事業予定地（高瀬・三野西部・大川・大内地区）を調査対象とした。

| 実施年度 | 調査対象地 | 調査方法 | 調査の目的 | 報告書の名称 |
|------|---|----------------------------------|---|---|
| 58年度 | 中横4市9町 | 分布調査 | 遺跡台帳の整備 | 昭和58年度埋蔵文化財詳細分布調査概報 |
| 61年度 | A 国道32号南高バイパス B 国道11号高松東バイパス C 国道11号新出・丸龜バイパス D 国道11号普通道バイパス E 四国横断自動車道（高松：善通寺間）の埋蔵文化財予定地 | 分布調査 (A-E) 試掘調査 (A-B-D) | 国道バイパス、四国横断自動車道予定地内の埋蔵文化財有無の確認 | 国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内 埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報 |
| 62年度 | 国道11号高松東バイパス（高松市林町～六条町）建設予定地内 | 試掘調査 | 高松東バイパス建設予定地内の遺跡範囲の確定 | 一般国道11号高松東バイパス建設予定地内 埋蔵文化財試掘調査報告 |
| 63年度 | A 国道11号高松東バイパス（高松市東山崎町・前田東町）建設予定地内 B 県営は場整備事業予定地内（大川・鴨部・三野東部・疊中・高瀬） | 分布調査 試掘調査 | A 高松東バイパス建設予定地内の遺跡範囲の確定 B 遺跡台帳の整備 | 一般国道11号高松東バイパス建設及び県営は場整備に伴う、埋蔵文化財試掘調査報告II |
| 元年度 | A 国道11号高松東道路（高松市前田西町の一部）建設予定地内 B 国道32号満濃バイパス（満濃町四条宿家地区）建設予定地内 C 黒宮は場整備事業予定地内（高瀬・三野東部・香南・鴨部・大川） | 分布調査 試掘調査 | A 高松東道路建設予定地内の遺跡範囲の確定 B-C 開発予定地内の埋蔵文化財有無の確認及び遺跡台帳の整備 | 埋蔵文化財試掘調査報告III 国道バイパス建設予定地及び県営は場整備事業予定地内の調査 |

表1 遺跡詳細分布調査の概要（各年度）

第2章 国道バイパス建設予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財の保護については、事前に香川県教育委員会と建設省香川工事事務所との間で適宜協議を行い、その適切な保護に努めてきた。

高松平野のほぼ中央を東西に貫いて建設される高松東道路（高松市上天神町～同前田東町間）建設予定地のうち、高松市太田第2土地地区画整備事業予定地を除く、延長約6.2km、7区間については、昭和61年度以降「遺跡詳細分布調査」等により、各区間単位に順次分布・試掘調査を実施し、建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地の有無確認および遺跡範囲の確定を行い、これにより順次事前の発掘調査が実施されている。平成2年度は最終地区となった前田西地区のうち新川以西の延長約960mの区間に調査対象とした。

また、高松東道路（木田郡三木町～大川郡津田町間）および満濃バイパス（綾歌郡綾歌町～仲多度郡仲南町間）建設に伴う埋蔵文化財の保護については、昭和63年11月1日付建四香第1461号で照会文書が提出されている。高松東道路（木田郡三木町～大川郡津田町間）については平成元年度に一次調査として現地踏査等を行い、2年度には全区間の延長約16.5km、面積約495,000m²を対象に調査を行った。

満濃バイパスについては、平成元年度に満濃町四条福家地区の延長約450mの区間に対象に試掘調査等を行ったが、今年度はその北側延長部に当る満濃町吉野下地区・羽間地区の一部等延長約1,340m、面積約62,300m²を対象に調査を行った。

| 調査地区名 | 分布調査 | | 試掘調査 | | 確認した遺跡の概要 | | | |
|---|------------------|-----------------------|-----------------|---------------------|------------|-----|-------|---|
| | 期間 | 面積 | 期間 | 面積 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | 保存措置等 |
| 1 高松東道路 (前田西地区の内新川以西) | 5月22日 | 38,500m ² | 6月11日～ 6月15日 | 600m ² | — | — | — | — |
| 2 高松東道路 (三木町～津田町) | 10月22・ 25・26日 | 495,000m ² | — | — | — | — | — | — |
| 3 満濃バイパス (羽間地区の一部 吉野下地区 五条地区の一部) | 8月22・ 30日 | 62,200m ² | 9月5日～ 9月13日 | 730.5m ² | 吉野下秀石 塚 | 無落塚 | 古墳～古代 | 8,500m ² 記録保存 13m ² 現状保存 |

表2 国道バイパス調査対象事業と調査の経過・概要

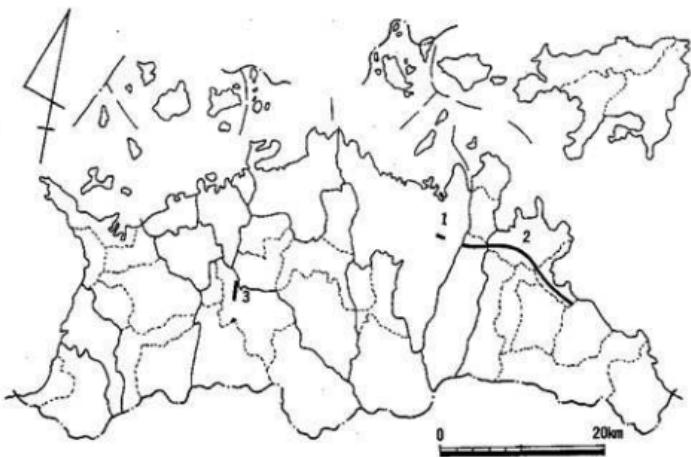


図1 国道バイパス調査対象地位置図

(2) 調査の方法

事前に道路建設予定地内の現地踏査を実施し、遺物の表面採集、地形観察等により、試掘調査の必要の有無確認および試掘場所の選定を行い、あわせて水路や公・私道の現状や重機の進入経路を確認した。

試掘調査はトレンチ調査で、以下の方法を原則とした。

試掘トレンチは調査対象の範囲および地形、地割等を勘案して設定した。道路建設予定地内の試掘調査の場合、建設用地の両側近くにそれぞれトレンチを設定するのが有効であり、通例であるが、今年度は、分布調査の結果等により、建設用地内のほぼ中央あるいは千鳥に、地割にあわせて土地一区画単位にトレンチを設定した。トレンチの規模は幅約2m。

トレンチの掘削は重機により各土層毎に掘削し、遺構等の発見される地面で一時停止して、その後は入力により掘削面の清掃を行った。遺構等の検出後は土層柱状図、遺構配置略図を作成し、写真撮影を行った。調査記録作成後、必要に応じてさらに深く掘削して土層の堆積状況を観察・記録し、調査終了後旧状に埋戻した。

(3) 調査の概要

1 高松東道路（前田西地区、新川以西）

位置と環境

調査対象地は、高松東道路建設予定地の前田西地区のうち、新川西岸堤防から、県道高松長尾大内線までの延長約960mの区間であり、道路幅は概ね40mである。調査はこの区間の道路建設予定地全域の約38,500m²を対象とした。

調査対象地は新川と吉田川に挟まれた低地であり、標高は約9～8mを測る。

周辺の遺跡の分布状況を概観すると、まず、北東部の前田山、立石山等の低山塊には、古墳時代後期の群集墳である平尾古墳群、金石山古墳群や「T」字形の石室を有する瀧本神社古墳が所在し、また、奈良時代の寺院跡である宝寿寺跡も所在する。北方約1.2kmの低丘陵には、古墳時代前期の前方後円墳である高松市茶臼山古墳や多くの後期古墳、さらに弥生時代中～後期の集落跡である久米池南遺跡が所在する。

また、調査対象地の西側には中世～近世の集落跡である東山崎・水田遺跡が、東側には弥生～平安時代の集落跡である前田東・中村遺跡が所在している。

調査結果

基本的な土層の堆積は、耕作土の下に粘質土層、粘土層、粗砂層、さらに青灰色粘土、の順である。吉田川より西側については耕作土の下に砂質土層が堆積しており、粘質土層は見られなかつた。

遺構はトレント①で溝状遺構を3条検出したが、遺構が検出された砂質土層より近世以降のものと思われる土器が出土しており、したがって、この溝状遺構は、近世以降のものであると推測される。

他のトレントでは、河川の氾濫原と思われる粗砂層が堆積しており、遺構・遺物ともに検出されなかつた。

まとめ

土層の堆積状況からみて、当該地は吉田川と新川の氾濫原または低湿地であったと考えられ、集落等の遺跡の所在する可能性は少ないものと思われる。

したがって、当該地の事前の保護措置は不要であると判断される。



- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 東山崎・水田遺跡（集落跡、中世～近世） | 12 岡崎古墳（後期） |
| 2 前田東・中村遺跡（集落跡、弥生～平安） | 13 田楽古墳（後期） |
| 3 根子堂散布地（弥生） | 14 平尾古墳群（後期、円墳4基） |
| 4 東畠散布地 | 15 金石山古墳群（後期、円墳3基） |
| 5～8 弥生土器、須恵器散布地 | 16 瀬本神社古墳（後期） |
| 9 宝寿寺廃寺跡（奈良） | 17 久米池南遺跡（集落跡、弥生中～後期） |
| 10 東門古墳（後期） | 18 高松市茶臼山古墳（前期、前方後円墳） |
| 11 橋古墳（後期） | 19 久米山古墳群（後期、円墳6基） |

第2図 調査対象地と周辺遺跡分布図

第3図 調査トレンチ配置図

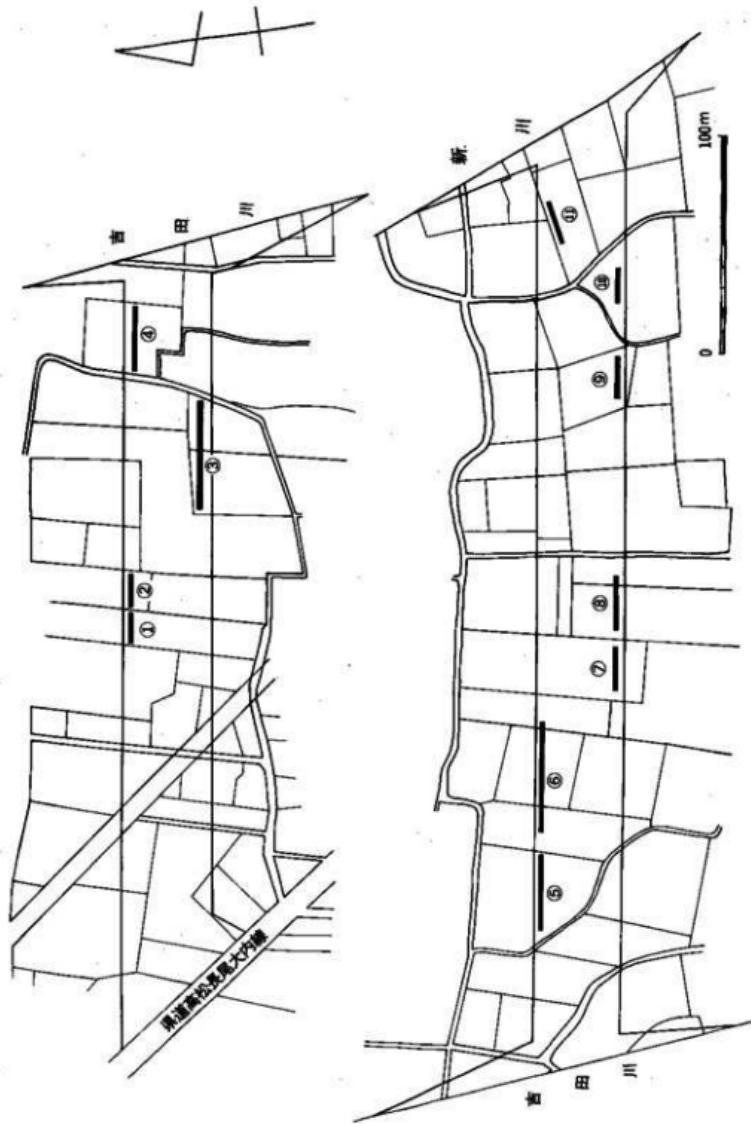


写真 1

調査風景



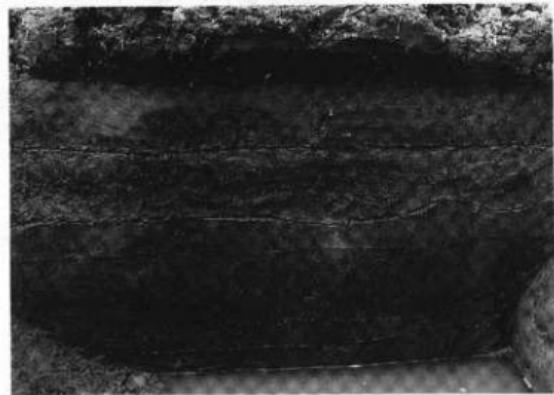
写真 2

トレンチ⑤全景（東より）



写真 3

トレンチ⑧土層断面



2 高松東道路（三木町～津田町）

高松東道路（高松市上天神町～前田東町）の東延長部となる、高松東道路（三木町～津田町）の建設と埋蔵文化財の保護については、昭和63年11月1日付建四香1461号で建設予定地内の埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて、建設省香川工事事務所から香川県教育委員会に対して照会文書が提出された。この開発規模は延長約16.5km、面積約495,000m²で、建設予定路線は香川県東部の海寄りの山間部を通る。

これに対して香川県教育委員会は、平成元年度に全区間の平野・低地部の踏査等を行い、建設工事の急がれた大川郡志度町鳴部地区およびその東接の山上部については、事前に発掘調査・試掘調査の必要な範囲を回答した。

平成2年度には、志度町鳴部地区の平野部で事前の発掘調査が行われると平行して、いわゆる周知の遺跡の所在と現状を確認するとともに、建設工事前に試掘調査が必要な区域の抽出を目的として、再度全区間の踏査を行い、道路建設に伴う埋蔵文化財の適切な保護に努めている。



第4図 調査対象地位置図

3 満濃バイパス

位置と環境

調査対象地は土器川以北の羽間地区（延長約540m、面積約32,600m²）、土器川～県道満濃善通寺線の吉野下地区（延長約800m、面積約29,600m²）、三界山北辺頂部の五条地区の3地区である。羽間地区は土器川の氾濫平野と中津山山塊の西麓部、吉野下地区は土器川と金倉川が形成した氾濫平野、五条地区は氾濫平野を見下せる山の山頂部である。

周辺の遺跡分布は、氾濫平野部には奈良時代の弘安寺廃寺跡の所在が知られるのみで、その北方および南方の山上部には後期古墳が小規模な群集形態をなして分布している。

調査結果

〔羽間地区〕 平地部に2箇所（トレンチ①③）、横穴式石室墳が所在する安造田神社前面の山裾部に3箇所（トレンチ②④⑤）、合計5箇所のトレンチを設定した。平地部は現耕作土下に厚10余cmまで砂質土が堆積し、以下は径30cm未満の河原石を主体とする砂礫層である。山裾部は開墾等により階段状の畑となっており、耕作土直下が地山の花崗岩風化土となるが、谷筋に当る箇所では既往の開墾による二次的造成盛土と考えられる土の堆積が観察される（トレンチ②）。遺構は溝等が発見されたが土層堆積状況からみて近現代のものと判断され、また遺物は中世後半以降のものが二次的造成盛土中から出土した。

〔吉野下地区〕 土器川の南岸、水田が広がる平野部に14箇所のトレンチを設定した。トレンチ⑧を最高所に土器川に併行する軸を持つ自然堤防状の微高地が観察される。トレンチ①では河道と推定される土層堆積が認められた。基本層序は現耕作土、黄灰色・灰色砂質土、黄（白）色土、灰褐色土、砂礫で、遺構面は黄（白）色土上面である。遺構はトレンチ③⑤⑥⑧⑪⑬からピット、方形土坑（堅穴住居跡？）、不整形土坑、溝が検出され、遺物はトレンチ⑤⑥から土師器小片が少量出土した。遺構埋土と出土遺物からトレンチ③⑤⑥⑧の遺構は自然堤防上に展開する古墳へ古代墳の集落跡のもの可能性があり、他の遺構は近現代の農業用水路と考えられる。

〔五条地区〕 現地踏査により、三界山の北辺頂部で古墳の墳丘状の高まりが観察され、また、鉄道工事の際にここから鉄剣が出土したとの伝承があるため、古墳およびその関連遺構等の確認を目的にトレンチを2箇所設定した。南側トレンチの頂部寄りで、地山の赤黄褐色土に貼付くように河原石が検出され、古墳の墳丘裾をめぐる石列の一部と判断した。古墳の規模は直径10数cmと推定される。

まとめ

調査の結果、土器川南岸の吉野下地区において、自然堤防上に古墳～古代墳の集落遺跡の所在する可能性が高く、その範囲は図6に示す面積約8,500m²の範囲と考えられる。この遺跡の名称は、最も広い範囲を占める小字名に、大字名を冠して、吉野下秀石遺跡とする。また、五条地区的古墳は墳丘の一部が現存し、主要部分は鉄道工事の際滅失したと考えられる。



- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 弘安寺廃寺跡（奈良） | 6 佐岡銅劍出土地（弥生） |
| 2 三界山古墳群（円墳 5基、後期） | 7 佐岡寺跡（平安） |
| 3 出雲山古墳群（横穴式石室10余基、一部破壊） | 8 中世墳墓 |
| 4 西山西部古墳群（円墳、横穴式石室、後期） | 9 安造田古墳群（円墳数基、後期） |
| 5 佐岡 1・2号墳（後期） | |

第5図 調査対象地と周辺の遺跡分布図

図6 調査トレーンチ配置・道路範囲図

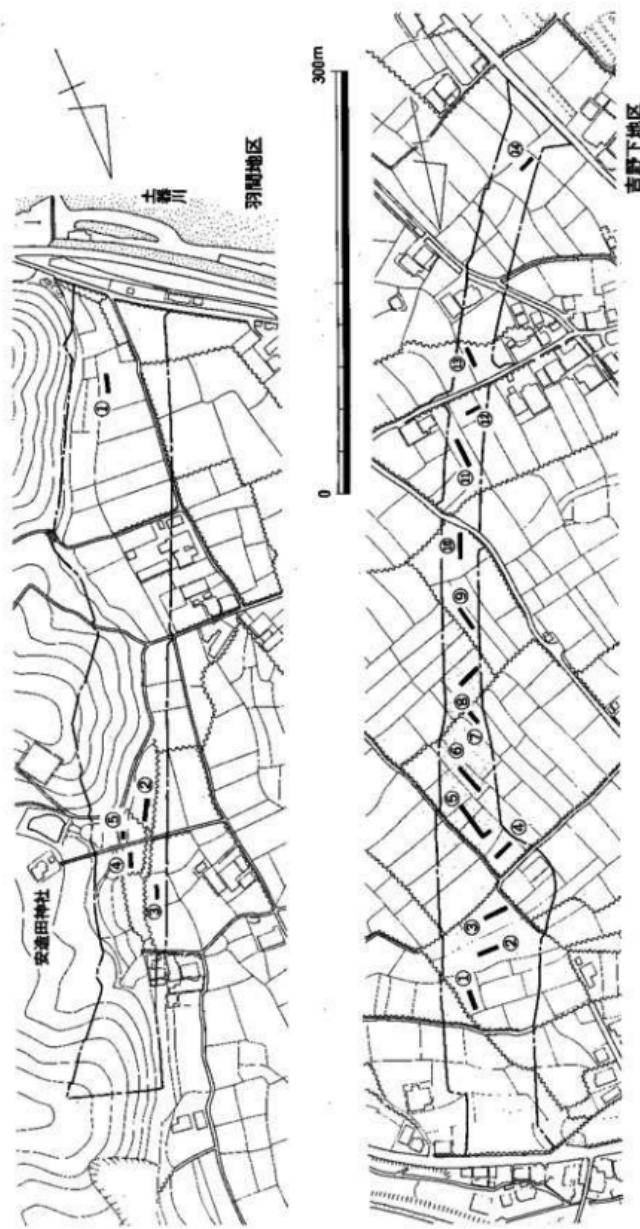


写真 4

調査対象地遠景（南から）



写真 5

羽間地区

トレンチ①掘削状態



写真 6

吉野下地区

作業風景（トレンチ⑤）

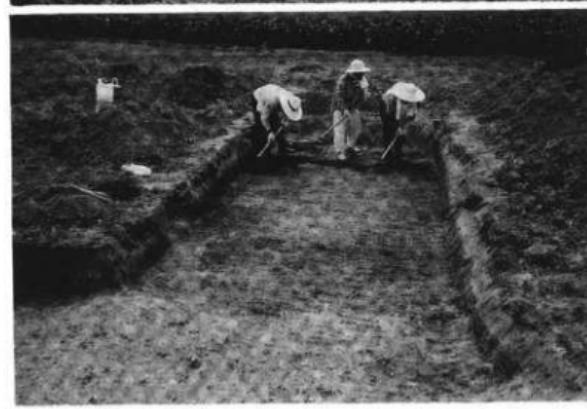


写真 7

吉野下地区

作業風景（トレンチ⑥）



写真 8

五条地区

調査対象地遠景（西から）



写真 9

五条地区

トレンチ掘削状態



第3章 県道建設予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

平成3年度末に供用開始が予定されている四国横断自動車道（高松～普通寺間）のアクセス道路として、香川県土木部道路課は県道山崎御駄線の道路改良事業を企画した。開発規模は県道三木国分寺線から国道11号までの南北延長約1.3km、幅約30m、面積は約39,000m²で、県道としては過去に例をみない大規模なものである。

香川県教育委員会は、昭和63年度の秋10月に現地踏査を行い、事前に試掘調査等を実施する必要があると判断した。平成元年度には試掘調査の実施等について道路課と協議を重ねたが、用地問題等により試掘調査の実施は平成2年度へ持送りとなった。

平成2年度の後半には、四国横断自動車道が、平成3年度末に開通の見通しが立つのに伴い、そのアクセス道路としての県道山崎御駄線の建設計画が急速に進展した。平成2年秋によくやく一部区間（古川以北の延長約230m）について条件が整い、稲の収穫をまって、11月上旬に試掘調査を行った。続いて、平成3年1月には用地交渉が妥結した他の区間を対象に試掘調査を行った。

(2) 調査の方法

調査対象は古川以北の延長約230m、幅約30m、面積約6,900m²の範囲である。試掘調査では事前の分布調査で確認した地形・地割および水路や公・私道の現状等を勘案してトレンチを設定した。ここでは土地一区画単位に幅約3mのトレンチを原則として千鳥に配して、合計9箇所設定した。調査トレンチの総延長は約106mで、試掘調査における実掘面積は約320m²。これは調査対象面積約6,900m²の約4.6%に当る。

調査トレンチは重機により各土層毎に掘削し、その後人力により精査し、遺構等の検出を行った。遺構等の検出後はそれらの配置略図、土層柱状図を作成するとともに、写真撮影を行った。また、一部の遺構等については、その内容・遺存状態・時代等を把握するため掘削した。これらの作業終了後、さらに掘下げ遺構等の有無の確認を行った。すべての調査終了後、調査トレンチは旧状に埋戻した。

(3) 調査の概要

1 県道山崎御既線

位置と環境

調査対象地は香東川中流域西側に展開する台地・段丘の下位面に立地し、高松市南部の香南台地にその源を発して、高松市西郊の香西で瀬戸内海に流れ込む本津川の支流である古川の右岸に位置する。周辺には田園風景が広がり、標高は26m台で、北と西の二方向に緩に傾斜する。

近隣で知られている遺跡としては香東川西岸の中近世の塚群、六ツ目山・堂山の東麓の中・後期の小規模古墳等表面観察で比較的容易に確認できるものがほとんどであるが、四国横断自動車道の建設に伴い六ツ目山北東山裾の扇状地で集落跡等が発見された。また周囲一帯には旧香川郡の条里制地割とされる一辺100余mの方格地割が良好に認められる。

調査結果

ここに報告するのは平成2年11月8日から13日にかけて、上旬に、古川以北の延長約230mを対象に実施した試掘調査結果である。

基本的な土層堆積はI層現耕作土(表土、厚20cm前後)、II層赤味黄色(灰色)砂質土(厚0~30cm、磨滅した遺物少量含)、III層黄色粘質土(場所によって小礫を含む、地山)、IV層礫混黄色土(地山)である。

遺構はIII層上面で検出された。その種類は掘立柱建物跡、ピット、土坑、溝、井戸?等があり、遺構密度は比較的高い。遺構の埋土には黒褐色土、灰黑色土、灰色土等数種類あり、複数時期のものがあると考えられる。

遺構はII層および遺構から奈良~平安時代頃の須恵器片、土師器片等が出土したほかに、中世の土師器土鍋片、近世陶磁器片、旧石器(船底形石器)等も出土し、遺物総量は約100点である。

調査の結果、調査対象とした全域(面積約69.00m²)に遺構が広がることが明らかになったが、これらは集落跡の一部と考えられ、その時代、時期は奈良~平安時代頃のものが主体で、一部に中近世頃のものがあると思われる。また、旧石器時代の遺構等が所在する可能性がある。

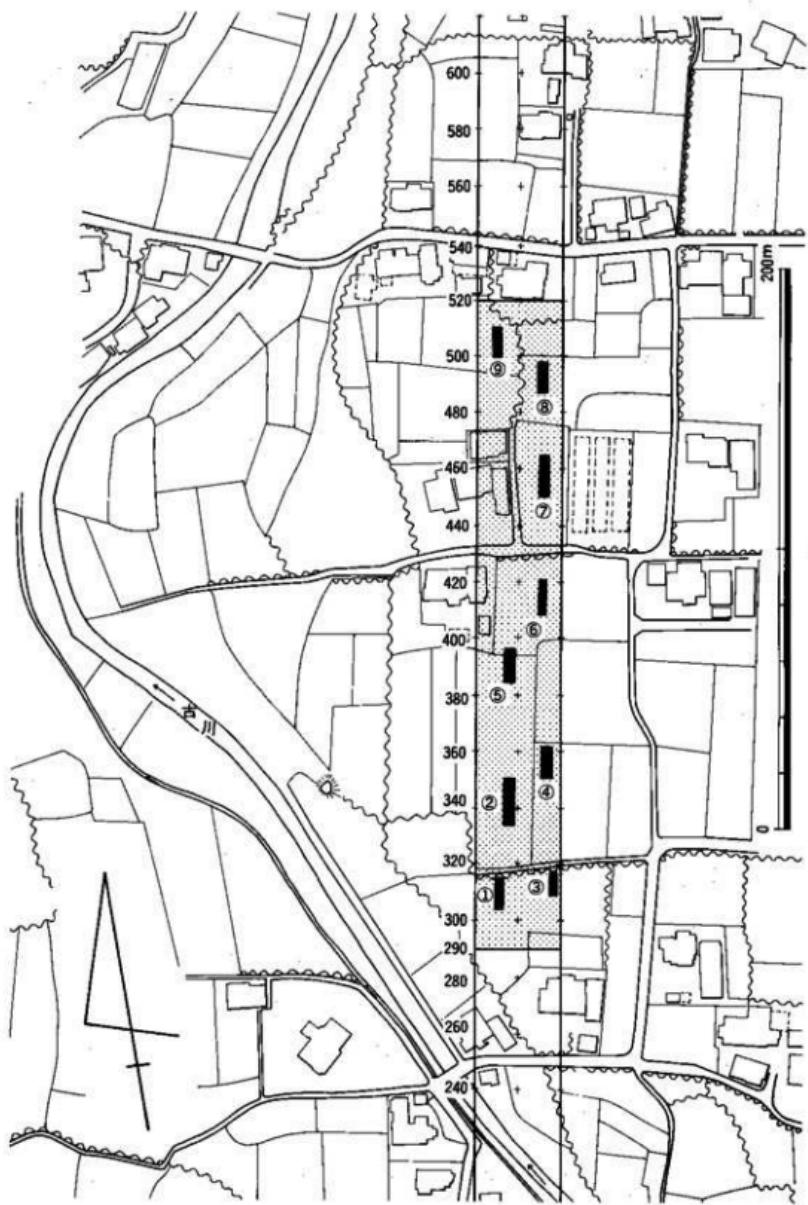
| 番号 | 遺構・遺物 | 番号 | 遺構・遺物 |
|----|--|----|-----------------------------------|
| ① | ピット2、溝1、溝状落ち1検出 須恵器片、土師器片、(カマド)出土 | ③ | ピット2、溝3検出 須恵器片、土師器片出土 |
| ② | 掘立柱建物跡1、ピット、土坑等遺構 多数検出、 須恵器片、土師器片出土 | ⑥ | ピット6、土坑2、溝1耕作土直下検出 須恵器片、土師器片出土 |
| ③ | ピット3、焼土土坑1検出、 須恵器片、土師器片出土 | ⑦ | ピット3、4、瓦2、溝2検出 須恵器片、土師器片、旧石器出土 |
| ④ | ピット、土坑(須恵器埋納土坑等)、 溝等遺構多數検出 須恵器片、土師器片出土 | ⑧ | ピット多數、土坑1、溝1検出 須恵器片出土 |
| | | ⑨ | ピット多數、土坑2、溝3検出 陶器片、須恵器片出土 |

表3 県道山崎御既線各調査トレンチの概要



- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1 中間西井坪遺跡 (集落跡、古墳、埴輪製作跡、旧石器～中世) | 9 西山崎 2 号墳 (円墳) |
| 2 推定南瀬道 (古墳、箱式石棺) | 10 西山崎 3 号墳 (円墳) |
| 3 矢塙北古墳 (古墳、箱式石棺) | 11 西山崎 4 号墳 (円墳) |
| 4 矢塙南古墳 (古墳、箱式石棺) | 12 北岡城跡 (戦国) |
| 5 弓塙下古墳 | 13 三ツ塙古墳 |
| 6 須恵器散布地 (古墳) | 14 涅波天神社古墳 (前方後円墳、円筒埴輪) |
| 7 西山崎 1 号墳 (古墳、円墳、河原石散乱) | 15 御殿大塚 (円墳、横穴式石室、巨石墳) |
| 8 豊谷池散布地 (須恵器) | 16 衣懸古墳 |
| | 17 袋山古墳 |

図 7 調査対象地と周辺の遺跡分布図



第8図 調査トレンチ配置・遺跡範囲図

写真 10
調査対象地遠景（南から）



写真 11
重機による掘削風景
(トレンチ⑦)



写真 12
トレンチ⑦掘削状況



写真 13

トレンチ②遺構検出状態



写真 14

トレンチ④遺構検出状態



写真 15

トレンチ④須恵器壺出土
状態

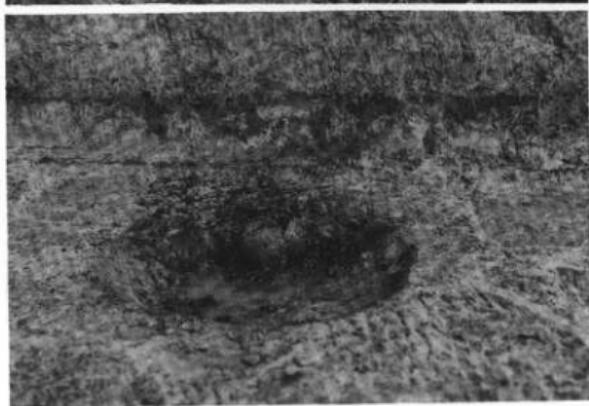


写真 16

トレンチ⑤遺構検出状態



写真 17

トレンチ⑤須恵器坏出土状態

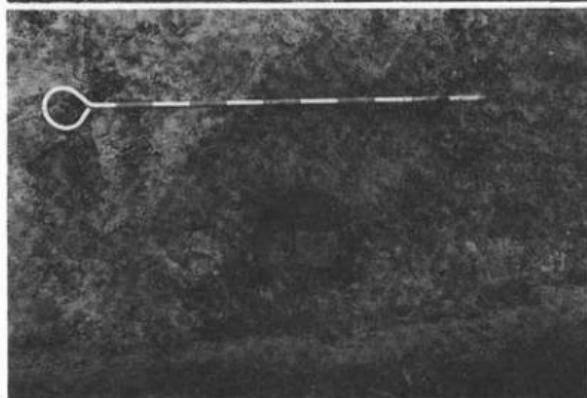


写真 18

トレンチ⑦遺構検出状態

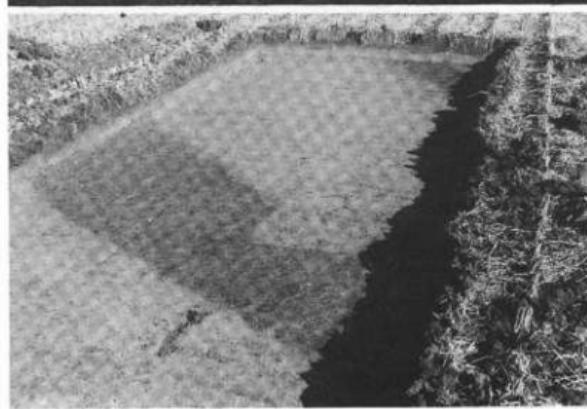


写真 19

トレンチ⑧遺構検出状態

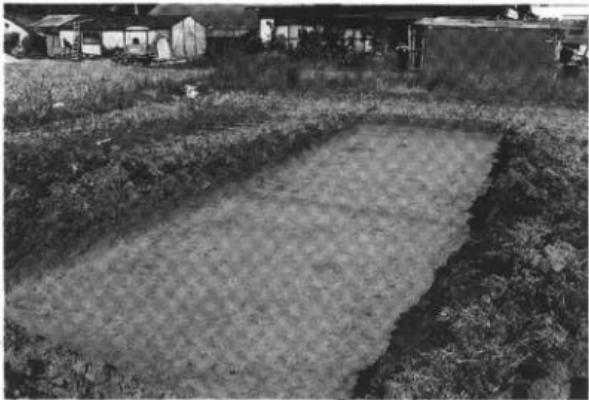


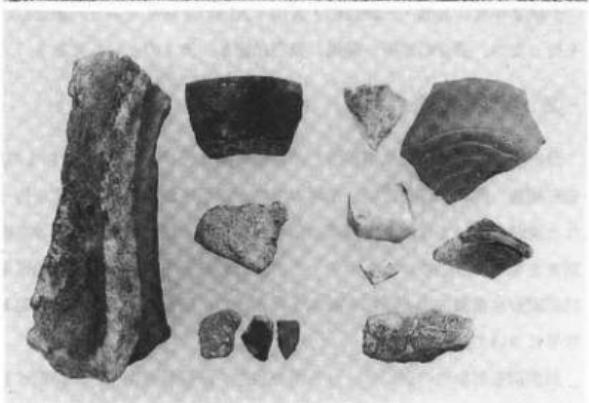
写真 20

トレンチ⑨遺構検出状態



写真 21

トレンチ①出土遺物
右須恵器、左土師器



第4章 県営ほ場整備事業予定地内の調査

(1) 調査に至る経緯と経過

昭和58年度に香川県のほぼ中部域の4市9町を対象に実施した国庫補助事業「遺跡詳細分布調査」では、従来確認していた遺跡数に比べ約4割増の遺跡が新たに発見された。また、その後の四国横断自動車道や国道バイパス等の建設に伴う発掘調査でも平野部を中心に新たな遺跡の発見が相次いだ。これらのことを勘案すれば平野部には未確認の遺跡が所在していることが充分に予想される。今後の諸開発に適格に対処し、埋蔵文化財の適切な保護を進めるためには、従来香川県ではその所在の確認が不充分であった平野部の遺跡の所在を把握することは緊急を要すると考えられる。

そこで香川県教育委員会は、昭和63年度から、概ね低丘陵・山麓部から平野部にかけて広範囲に事業を実施する県営ほ場整備事業を「遺跡詳細分布調査」の対象に加え、同事業予定地内の遺跡の所在の有無およびその範囲、時代・時期、内容、性格等を確認し、遺跡台帳・遺跡地図の整備・充実とともに、事業実施にあたって遺跡の適切な保護をはかるための資料を得ることを目的として調査に着手した。

昭和63年度は高瀬・豊中・三野東部・鴨部・大川の5地区を調査対象とし、豊中を除く4地区で試掘調査を行った。その結果、周知の1遺跡と新発見の5遺跡について、その具体的な内容を把握した。

平成元年度は高瀬・三野東部・香南・田中・鴨部・大川・大内の7地区を調査対象とし、田中・大内を除く5地区で試掘調査を行い、4遺跡の所在、内容等を確認した。

平成2年度は高瀬・三野西部・大川・大内の4地区を調査対象とし、すべての地区で試掘調査を行ったが、調査の場所、経過、概要是図9、表4のとおりである。

(2) 調査の方法

分布調査は各土地改良事務所との協議の際に入手した1,000分の1の図面をもとに、遺物採集、地形観察、聞き取り等を行い、遺跡の所在が予想される範囲の確認を行った。遺跡の所在が予想される範囲については地下構造等の所在の有無および遺構面の深さ等を確認するため、事前に試掘調査を実施する必要があるので、この時にあわせて試掘調査対象地区をある程度選定した。また、試掘調査は重機による掘削を基本とするので、重機の進入、移動経路および水路や公・私道の現状等について確認した。

試掘調査対象地の選定は、分布調査結果や試掘調査実施予定期における作付、さらにはほ場

整備事業の各地区の設計高さについて検討して行ったが、結果的に切土設計となる地区が試掘調査対象地となった。

試掘調査はトレンチ調査で、トレンチは地割、地形にあわせて設定した。試掘トレンチの規模は幅約2m長さ約20mを基本としたが、必要に応じてその規模を大きくした。

試掘トレンチの掘削は各土層毎に重機で行い、遺構が発見される深さで一時停止し、その後は人力により掘削面を清掃し、遺構の検出に努めた。重機の掘削等による堆土については、耕作土とその他の土を分けて仮置きした。試掘トレンチの掘削の深さは、ほ場整備事業実施後の耕作に留意して、ほ場整備事業の設計の切土高までとした。遺構検出後は土層状図、遺構配置略図等の作成、写真撮影を行った。すべての調査終了後、試掘調査トレンチは旧状に埋戻した。

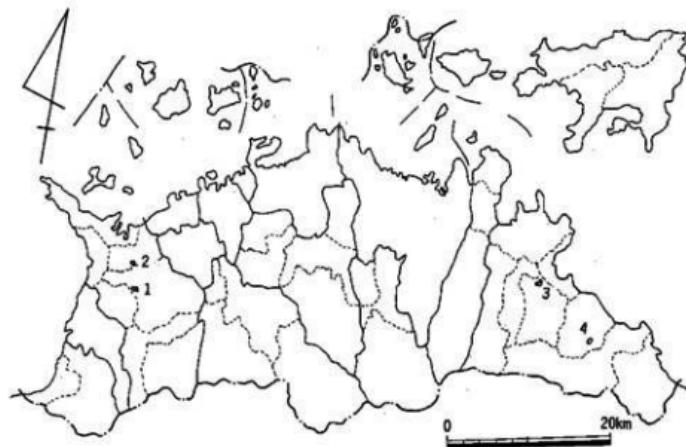


図9 県営ほ場整備調査対象地位置図

| 調査地区名 | 分布 調査 | | 試 掘 調 査 | | 確認した遺跡の概要 | | | |
|--------|-------|--------|-----------------------------|---------------------------------------|----------------|-----|-------|--|
| | 期 間 | 面 積 | 期 間 | 面 積 | 遺 記 名 | 種 別 | 時 代 | 保 存 値 等 |
| 1 高 沢 | 6月14日 | 15ha | 7月3日～7月5日 | 470m ² | 本村原遺跡 須ノ又遺跡 | 集落跡 | 中世 | 9,000m ² 現状保存 |
| 2 三野西部 | 6月15日 | 7 ha | 7月6日～7月9日 11月16日～11月19日 | 440m ² 18m ² | 宗吉窯跡 | 瓦窯跡 | 奈良 | 40m ² 現状保存 145m ² 協議中 |
| 3 大 川 | 6月19日 | 12.8ha | 10月23日～10月24日 | 176m ² | 宮町遺跡 | 集落跡 | 弥生～古墳 | 4,450m ² 現状保存 |
| 4 大 内 | 7月10日 | 20ha | 8月9日～8月10日 11月13日～11月14日 | 89m ² 60m ² | 大社遺跡 | 包含地 | 弥生～中世 | 900m ² 協議中 |

表4 県営ほ場整備調査対象事業と調査の経過・概要

(3) 調査の概要

1 高瀬地区

位置と環境

平成2年度の県営ほ場整備事業予定地は、昨年度の南接部にあたり(標高33~22m台)、事業面積は約15haである。全域を調査対象地とした。

調査対象地が位置する高瀬川中流域には平野部が広がるが、その中を北に片寄って高瀬川が北西流する。高瀬川南部は高瀬町と豊中町との境をなす眉山から派生した低丘陵と段丘が複合する地勢がみられ、昭和63年度以来の県営ほ場整備事業に伴う調査により、微高地に古墳時代~中世の集落跡が展開していることが確認されている。(須ノ又遺跡、神植遺跡、本村原遺跡)また、調査対象地の西隣には南北朝時代の北朝の年号を用いた永和4年(1378)3月6日の造立銘をもつ県指定有形文化財の勝造寺層塔(通称石の塔)が所在し、高瀬勝間の地は鎌倉時代以降後深草天皇領を経て持明院統(北朝)の庄園であったところでもある。

調査結果

平成元年度の調査で確認した遺跡の広がりを把握するため、微高地および高台部を中心にトレーニングを9箇所設定した。

基本的な土層堆積は、耕作土・砂質土(黄色・黄褐色・灰色等)・黄色粘質土(地山)である。砂質土層の厚さは場所によって異なり、耕作土直下地山となる箇所もある。

遺構はトレーニング①③⑤⑨の4箇所で、溝・ピット・土坑を検出した。トレーニング⑤では耕作土直下で、また他のトレーニングでは砂質土下で検出され、いずれも遺構面は黄色粘質土上面である。

遺物は耕作土および砂質土中から陶磁器片、いぶし瓦片、土師器片、須恵器片が出土した。

トレーニング①⑨検出の暗紫朱灰褐色土を埋土とする溝は砂質土下で検出され、出土遺物がなく時期の特定はできないが昨年度の調査結果からみて、中世以前の集落跡に関連するものと考えられる。また、トレーニング③⑤検出の遺構は出土遺物や耕作土下の近現代の遺物を含む土層を壊して形成していることから近現代のものと考えられる。

まとめ

調査の結果や地形等からみてトレーニング①を含む約5,000m²の範囲と、トレーニング⑨を含む約4,000m²の範囲に中世以前の集落跡が広がると推定される。これらの遺跡の名称は所在地の字名を探り、それぞれ須ノ又遺跡、本村原遺跡とする。なお、ほ場整備事業と同遺跡の保護については協議の結果設計変更により現状保存されることになった。

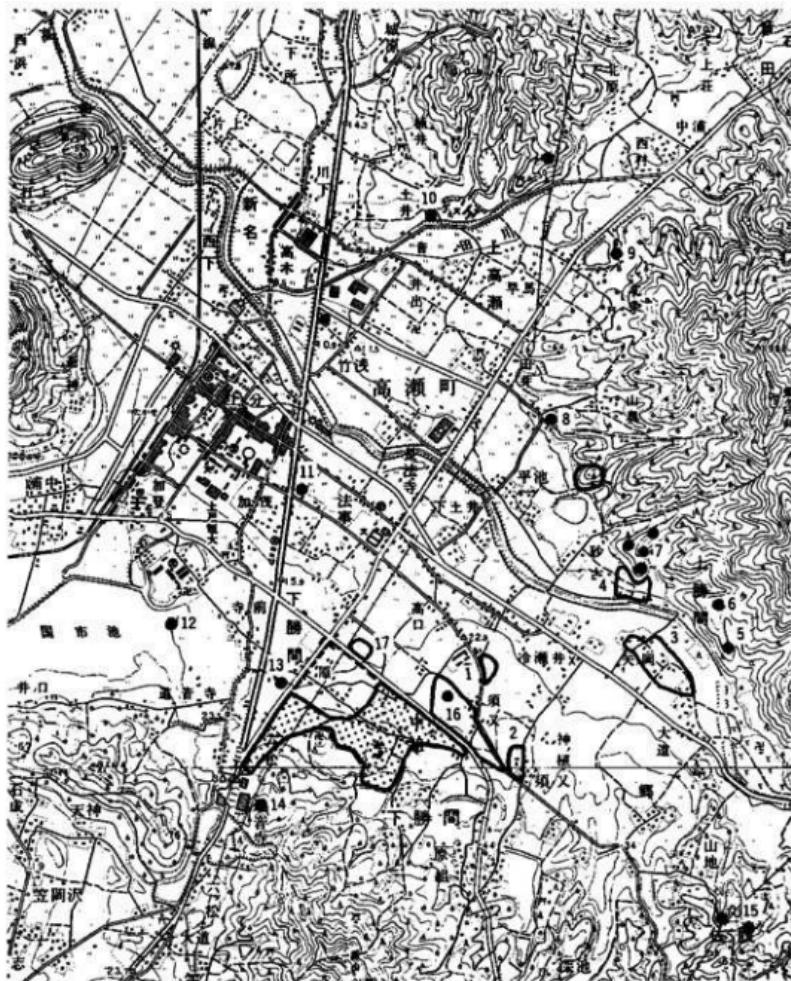


図10 調査対象地と周辺の遺跡分布図

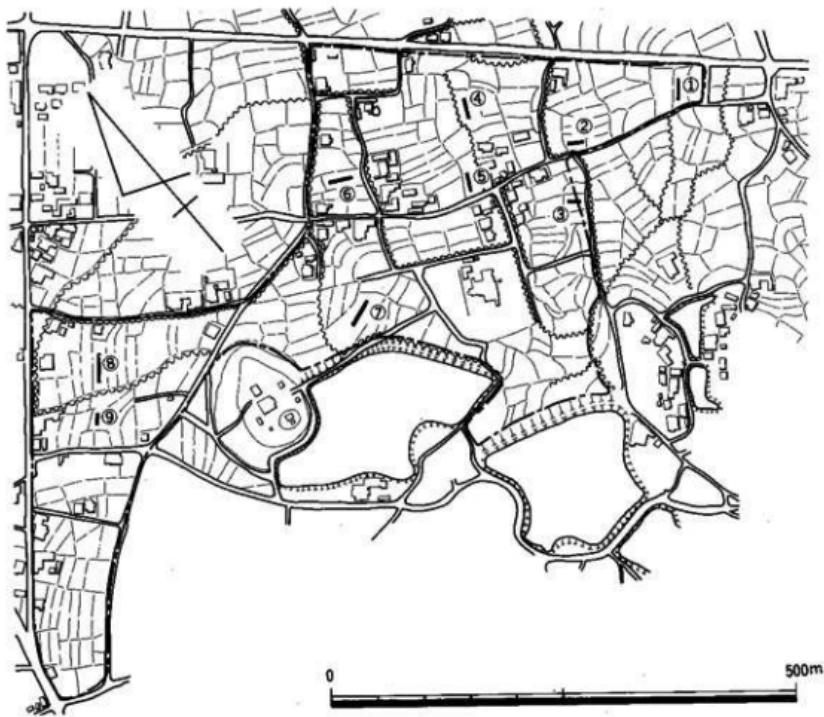


図11 調査トレンチ配置図



図12 遺跡範囲図

写真 22
調査対象地遠景
(トレンチ⑥付近)



写真 23
作業風景 (トレンチ①)



写真 24
トレンチ①遭構検出状態



写真 25

調査対象地遠景

(トレンチ⑦付近)



写真 26

重機による掘削風景

(トレンチ⑧)



写真 27

作業風景 (トレンチ⑨)



2 三野西部地区

位置と環境

高瀬川の下流域には標高2m台の低地が広がるが、その南詰の山条山と慈神山の北麓緩傾斜地が県営ほ場整備事業（面工事）予定地で、これにあわせて幅約7m、延長約160mの範囲で連絡農道の建設が予定され、両者を試掘対象とした。事業面積は約7ha。標高13～7m台。

周辺の遺跡分布は少なく、三野町域では奈良時代の瓦窯とされる宗吉窯跡が唯一知られているのみで、隣接の高瀬町域に須恵器窯の瓦谷窯跡、円墳の慈神古墳等が所在する。宗吉窯跡と瓦谷窯跡は皿池、国川池、新池と連なる同一の谷筋に立地し、直線距離で約500mの位置にある。

調査結果

試掘調査は7月に第1次、11月に第2次と2回にわたって実施した。第1次調査は面工事部分の包蔵地の所在有無確認と宗吉窯跡の所在確認を目的に実施した。面工事部分の緩傾斜地には7箇所のトレンチを設定したが、調査の結果、磨滅した陶磁器片、土師器片、須恵器片が少量出土し、近現代のピット・土坑が検出された。また、宗吉窯跡の確認トレンチを皿池西側の山林傾斜面に4箇所設定した。その結果、傾斜面のほぼ中位に設定したトレンチ⑩で窯体の一部を検出した。地元の古者の話では5、60年程前にはトンネル状であったといい、恐らく窯窓の天井部が落盤したものと判断される。煙道部、焚口等は未確認、トレンチ⑪では排水溝は検出されなかった。窯体推定規模は全長3m以上、幅1.2m以上。

第1次調査終了後直ちに農林部土地改良課と保存協議を行い、宗吉窯跡の窯体は農道の路線変更により現状保存されることになったが、これに伴い灰原の所在が考えられる皿池の南西隅が盛土下となるため、変更路線にかかる山林斜面部での窯跡等の所在と灰原の遺存状態を確認するため第2次調査を実施した。

第2次調査では山林斜面部に1箇所、皿池池底に4箇所トレンチを設定した。斜面部では新たな窯跡等は検出されなかったが、池底のトレンチでは灰原の所在を確認した。池底の基本的な土層堆積は暗黄褐色砂、青灰粗砂、淡青灰粘土の上層（以上厚30～60cm）と、黒色土（厚5～20cm、炭化物、焼土混）、暗黄褐色土の下層に大別され、以下黄褐色土（地山）となる。上層は2次堆積土、下層は灰原に相当すると考えられる。遺物は上層から重弧文軒平瓦片・平瓦片等が、下層からは平瓦片等が出土し、遺物総量は池底に散布していたものをあわせてコンテナ約4箱である。

まとめ

宗吉窯跡は古く大正時代に開墾中に発見され、復原径約18cm、厚約3cm程の八葉複弁蓮花文軒丸瓦が出土しているが、その所在等については不明な点が多かった。今回の調査で軒丸瓦出土の窯跡か否かは問題が残るが、窯体の位置・現状を確認し得たのは大きな成果であろう。また、踏査の結果、同一の谷筋に面して何箇所か瓦片等の散布がみられ、他に何基か窯跡の所在が推定される。さらに重弧文軒平瓦の出土から瓦窯の年代が7世紀代に遡る可能性もある。



- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 宗吉窯跡（瓦窯、奈良） | 4 東光寺古墳（後期？） |
| 2 瓦谷窯跡（須恵器窯、古墳後期） | 5 東光寺骨壺出土地 |
| 3 越神古墳（円墳、後期） | 6 皇子岡経塚 |

図13 調査対象地と周辺の遺跡分布図

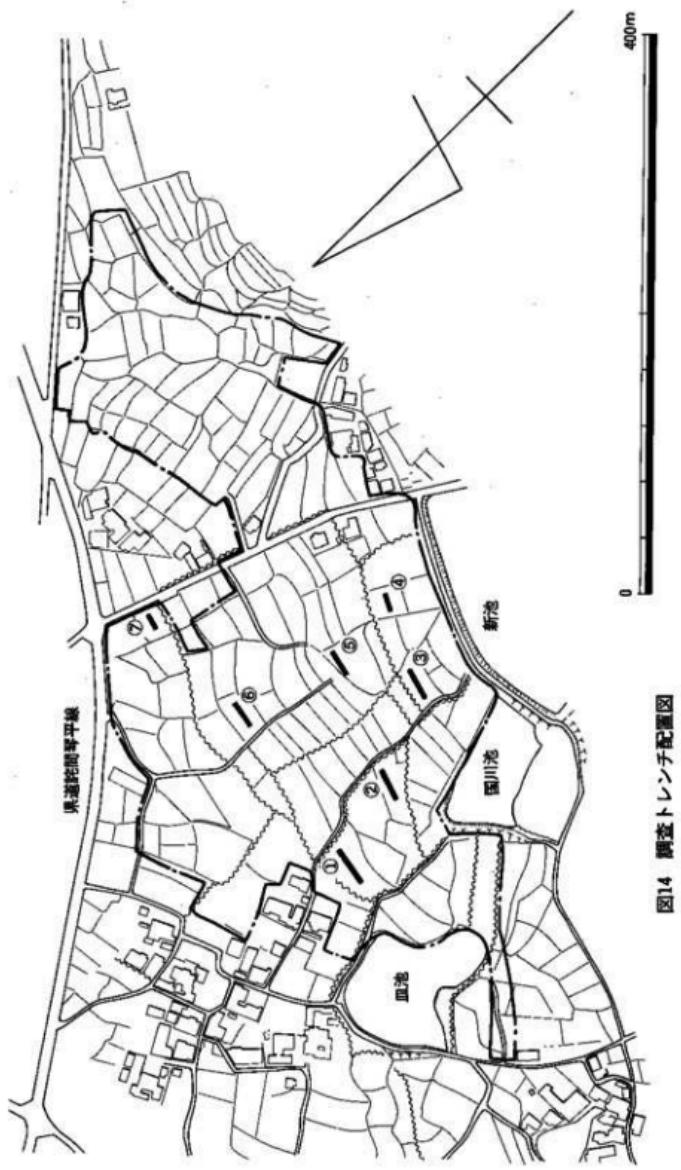




図15 宗吉窯跡調査トレーンチ配置図(約1:600)

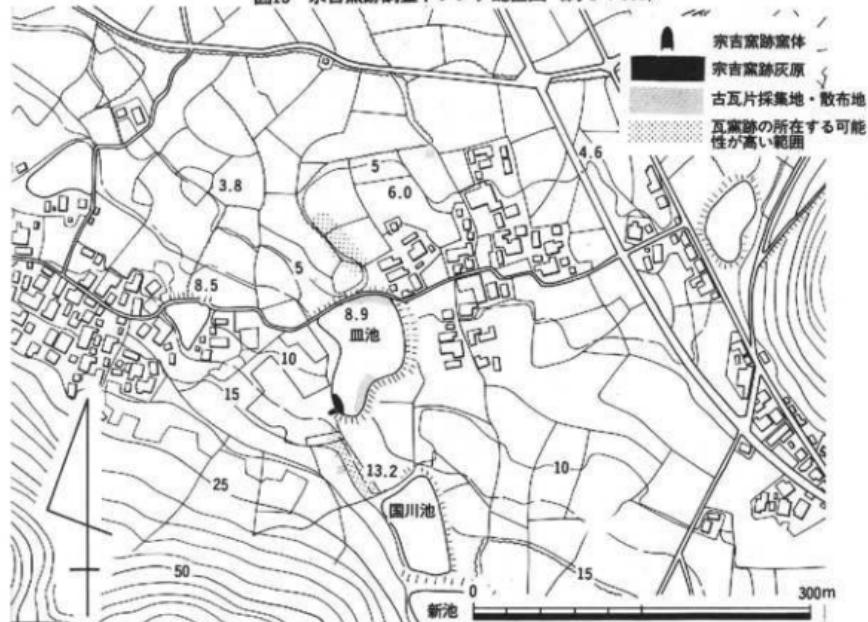


図16 宗吉窯跡周辺図

写真 28
第1次調査
調査対象地遠景



写真 29
第1次調査
作業風景（トレンチ⑤）



写真 30
宗吉窯跡遠景（北東から）



写真 31

宗吉窯跡第1次調査

発掘前の状況



写真 32

宗吉窯跡第1次調査

作業風景



写真 33

宗吉窯跡第1次調査

窯体検出状態



写真 34
皿池池底（北から）



写真 35
宗吉窯跡第2次調査
作業風景（東から）



写真 36
宗吉窯跡第2次調査
トレンチ①灰原検出状態



写真 37

宗吉窯跡第2次調査

トレンチ①下層出土遺物

左 長24cm、幅16cm、厚2cm

凸面は粗いハケ風の
ケズリ

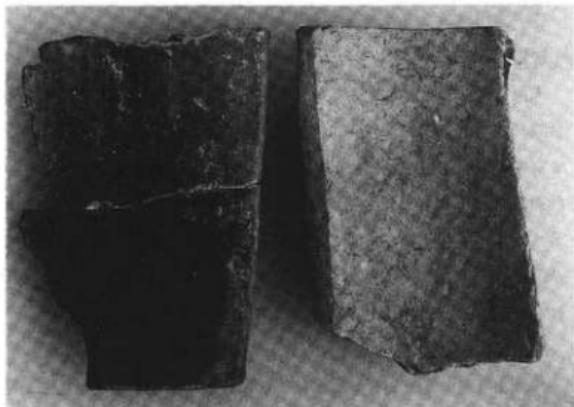


写真 38

宗吉窯跡第2次調査

トレンチ②下層出土遺物

左列 赤色酸化窓体片

中列上 平瓦片(厚2.5cm)

右列上 丸瓦 外径12cm

凹面布目

凸面ナデ

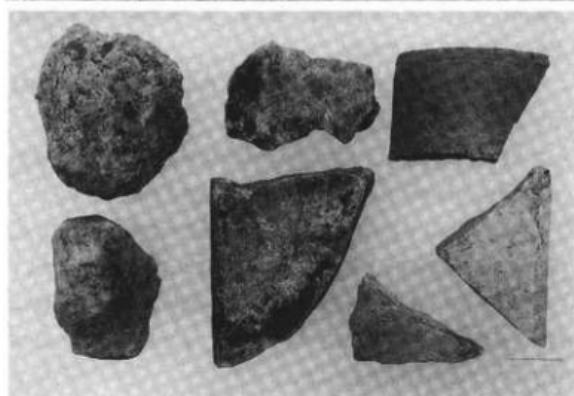


写真 39

宗吉窯跡第2次調査

トレンチ④出土遺物

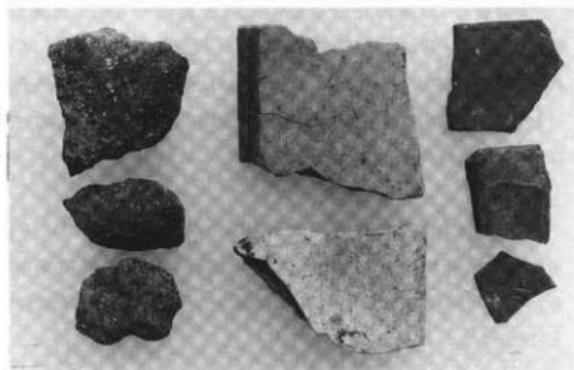
右列上 薄手(厚1cm)の瓦片

右列中 凹面布目

右列下 須恵器片

中列上 平瓦片(厚2cm)

側面端部く形



3 大川地区

位置と環境

大川町は香川県東部の内陸部に位置し、北と東は独立山塊、南は阿波山脈の前山の山塊と洪積台地に囲まれ、平野部は南北約1km、東西約2.5kmと狭長である。この平野部の北辺を津田川が、また中央を櫛川が北流、西流する。この地域の遺跡分布をみると、平野部周囲の山塊・山麓部には香川県東部の古墳文化を代表する川東古墳、古枝古墳、富田茶臼山古墳等が分布し、また北方の大川・津田・寒川の三町にまたがる雨滝山山頂には、香川県下の中世山城を代表する雨滝城跡が所在する。一方、平野部には弥生～近世にわたる集落跡が数箇所分布するほか、奈良～平安時代の寺院跡である下り松庵寺が所在する。

調査の概要

平成2年度の調査対象地は津田川の北岸、雨滝山の山麓部の谷底低地部分である。この地区的東部域は平成元年度に試掘調査を実施し、その南辺域で検出した包含層から遺跡の所在の可能性が考えられたところである。

平成2年度の調査は前年度の調査結果を踏まえ、津田川寄りに幅1.6～2.6m、長5.0～17.5mのトレンチを合計8箇所設定した。

基本的な土層堆積は、現耕作土・赤味黄灰色土・灰色系粗砂質土・黄色系粗砂質土であるが、トレンチ⑪では耕作土下8～33cmで黄色系粘質土が検出された。

遺構は、トレンチ⑪⑫の黄色系粗砂質土上面で各溝1を検出した。またトレンチ⑮では耕作土下13cmの黄褐色砂質土上面でピット1・土坑2・溝2を検出した。

遺物は、各トレンチの灰色系および黄色系粗砂質土中から磨滅した土師器片・須恵器片・瓦器片・土釜片・白磁片・陶磁器片等が出土し、またトレンチ⑯検出の遺構から弥生土器片（土師器片？）・サヌカイト片が出土した。

土層堆積および遺物の出土状態からみて、トレンチ⑪⑫の遺構は近・現代のものであり、また灰色系粗砂質土等および元年度調査トレンチ⑬検出の包含層は、各辺の南半部に観察され、これらは周辺丘陵部からの流入堆積土あるいは流入堆積後の人为的造成土と判断される。

トレンチ⑯検出の遺構は、尾根先の安定地に刻まれた集落跡の一部とみられ、その時代・時期は弥生～古墳時代の可能性がある。

まとめ

平成元年度の県営ほ場整備事業予定地について、2箇年にわたり調査を実施した結果、図18に示す範囲（面積4,450m²）で遺跡の所在を確認した。その遺跡の名称は小字名を探り宮町遺跡とする。なお、ほ場整備事業と同遺跡の保護については協議の結果設計変更により現状保存されることになった。



- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 富田茶臼山古墳（中期、前方後円墳） | 13 春広遺跡（集落跡、弥生～古墳） |
| 2 千町遺跡（散布地、古墳～中世） | 14 加藤遺跡（集落跡、弥生～古墳） |
| 3 了智坊遺跡（包藏地、弥生・近世） | 15 石田高校校庭内遺跡（集落跡、弥生～古墳） |
| 4 川東古墳（前期、積石塚前方後円墳） | 16 宮町東谷古墳群 |
| 5 下り松廻寺（奈良～平安） | 17 雨滴城跡（中世山城） |
| 6 柴谷古墳群（後期） | 18 黒岩古墳（前期、箱式石棺） |
| 7 晴友赤生塚墓群（墳墓、弥生） | 19 古枝遺跡（壺棺等） |
| 8 富田神社古墳（後期、円墳） | 20 落合古墳 |
| 9 古枝古墳（前期、前方後円墳） | 21 大井遺跡（壺棺等） |
| 10 大井古墳群（中期、円墳7基） | 22 奥古墳群（円墳、前方後円墳約30基） |
| 11 富田大角遺跡（集落跡、弥生） | 23 石井廻寺（白鳳、塔心礎） |
| 12 田辺遺跡（集落跡、古墳） | |

図17 調査対象地と周辺の遺跡分布図



図18 調査トレンチ配置・遺跡範囲図

写真 40

調査対象地遠景
後方が雨滝山



写真 41

作業風景（トレンチ⑪）



写真 42

重機による掘削風景
(トレンチ⑫)



写真 43
調査対象地遠景



写真 44
作業風景（トレンチ⑬）



写真 45
トレンチ⑮全景
背後の丘陵上に古坟古墳



4 大内地区

位置と環境

調査対象地は、虎丸山と那智山に挟まれて平野部に流れる与田川の上流にあたり、大川郡大内町水主に位置する。ほ場整備事業予定地は、与田川の左岸部分、面積は約20haであり、ほぼ全域が周知の埋蔵文化財包蔵地である大社遺跡（散布地）とされていたため、全域を調査対象とした。

当該地周辺の遺跡の分布状況をみてみるとまず、南西約1kmのところに縄文土器の散布地である西内遺跡や弥生時代～中世の散布地である水主神社遺跡が所在する。また、与田川を挟んですぐ南側には、岩瀬庵古墳等が所在し、北側には楠谷古墳が所在する。北東約0.5kmの丘陵裾部には、弥生時代から平安時代にかけての遺跡が分布している。また北東約2kmのところには弥生時代後期の壺棺が発見された高原遺跡が所在する。

調査結果

ほ場整備事業の工期が春・秋の2期に分かれるため、試掘調査も2回に分けて行った。

第1次調査

南側約10haを対象に5箇所のトレンチを設定した。丘陵裾を南北に通る里道を境に若干の段差が見られ、段差の高い方（トレンチ①及びトレンチ⑤）では耕作土下層に砂質土、粗砂層、細砂層が堆積しており、遺構・遺物とともに検出されなかった。段差の低い方（トレンチ②～④）では耕作土のすぐ下に褐色粗砂層、礫層が堆積しており、河川の氾濫原であることがわかった。

第2次調査

第1次調査対象地の北側に隣接する約10haを対象とし、5箇所のトレンチを設定した。

⑥トレンチ及び⑦トレンチでは、現地表下約40cmで河川の氾濫原と思われる暗褐色疊混粗砂層を検出したのみで遺構・遺物ともに検出されなかった。

⑨⑩トレンチにおいては現地表下約30cmのところで地山と思われる暗褐色砂質土がみられたが、遺構・遺物とともに検出されなかった。

一番高い部分にあるトレンチ⑧においては、現地表下約40cmのところで弥生時代～中世にかけての土器を含む茶褐色砂混粘質土を検出し、その下層に不定形土坑を1基検出している。土坑中からは遺物が出土していないため時期は不明である。

まとめ

第1次調査・第2次調査の結果、ほ場整備事業対象地のうち大部分は遺構等の所在する可能性はないと思われるが、トレンチ⑧周辺（図20で示す範囲）においては、包含層下層に遺構の所在する可能性が考えられるため、事前の保護措置を講じる必要がある。



- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 大社遺跡（散布地、旧石器～弥生） | 12 金毘羅山遺跡（散布地、弥生） |
| 2 西内遺跡（散布地、縄文） | 13 笠塚遺跡（壇場、弥生） |
| 3 水主神社遺跡（散布地、弥生～中世） | 14 城ノ内遺跡（散布地、弥生～平安） |
| 4 百變姫陵 | 15 別所池田遺跡（散布地、弥生～中世） |
| 5 楠谷古墳 | 16 別所古墳 |
| 6 尾長山遺跡（散布地、古墳） | 17 別所遺跡（散布地、弥生） |
| 7 岩瀬庵古墳 | 18 飛谷遺跡（散布地、弥生） |
| 8 風呂遺跡（散布地、弥生） | 19 与田寺山古墳 |
| 9 仲善寺遺跡（散布地、奈良） | 20 清塚古墳 |
| 10 北山遺跡（散布地、弥生） | 21 西村古墳 |
| 11 高原遺跡（壇場、弥生） | 22 落合遺跡（散布地、弥生） |

図19 調査対象地と周辺遺跡分布図



図20 調査トレース・遺跡範囲図（点線で囲まれた部分）

写真 46

調査風景



写真 47

トレンチ⑧不定形土坑

検出状態

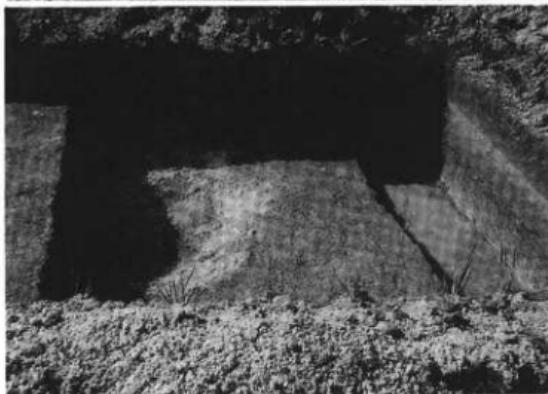


写真 48

トレンチ⑧土層断面



埋蔵文化財試掘調査報告IV

国道バイパス・県道建設予定地及び
県営ほ場整備事業予定地内の調査

平成3年3月31日

編集・発行 香川県教育委員会
高松市番町4-1-10
電話 0878-31-1111